

「大隅地域 地域振興の取組方針」（改訂版）素案からの 主な変更・修正点について

第2回地域懇談会でお示した素案について、意見交換でいただいた御意見や、県庁内会議等での意見を踏まえ、以下のとおり変更・修正しました。

- ① 福祉の面で雇用に関する相談が増えており、新型コロナウイルスの影響による収入減、失業等も課題である。（有馬委員）

第2章 1 新型コロナウイルス感染症により顕在化した課題と新たな動き
(略) また、非正規雇用労働者をはじめとして収入減や失業など雇用への影響も出ています。（1ページ）

- ② 志布志港における脱炭素社会に向けた課題及び取組について追記。（振興局建設部）

第2章 4 グリーン社会・エネルギー問題への対応

(4) 脱炭素社会の実現

- ・ 長期にわたり気温の上昇が続く中、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、温室効果ガスの更なる排出削減に取り組むことが求められています。（9ページ）

第4章 3 暮らしやすい社会づくり

(3) 脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生

- ・ 志布志港におけるカーボンニュートラルポートの形成について、地元自治体や関係機関等と連携した取組を推進します。（21ページ）

- ③ 子どもの引きこもりについては、学校も苦慮しており、子ども食堂だけに限らず、安心できる居場所づくりが必要である。(有馬委員)

第2章 6 地域のつながりや教育・子育て環境の変化

(1) 地域のつながり・子育て環境

- ・ 子どもの不登校や引きこもりには、経済状況や家庭環境など多岐にわたる要因が複合的に絡み合っているため、個々の状況に応じたきめ細かな支援が必要です。(10ページ)

第4章 3 暮らしやすい社会づくり

(1) 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう社会の実現

- ・ 不登校や引きこもりなどの相談対応、支援に取り組むほか、子ども食堂や学習支援などの子どもが安心できる居場所づくりを推進するとともに、児童虐待防止対策の取組を強化します。(20ページ)

- ④ 大隅の魅力発信は、内からだけではなく、訪れた人による発信も意識すべきである。(大竹野委員)

第4章 1 大隅の魅力の発信

(1) おおすみの魅力の発信

- ・ 来訪者が感じたおおすみの魅力を、即座に発信できるような環境整備に取り組みます。(16ページ)

- ⑤ テレワークの普及啓発について、具体的にどうやって取り組むか、アイデアを考えていく必要がある。(和田委員)

テレワークで空いた時間を、農林水産業の体験や地域の活動などに活用することで、担い手確保にも繋がる。(大竹野委員)

都市部の企業の方々にも自然環境豊かな所で研修をやってもらう取組は、今後期待できる。(県庁)

第4章 2 未来を拓く人づくり

(2) 多彩なキャリアをデザインできる働き方の創出

- ・ 時間や場所にとらわれることなく働くことができるテレワークの普及啓発など、柔軟な働き方がしやすい環境整備を促進するとともに、副業・兼業人材としての活用やワーケーションによる都市圏等の人材と地域との交流により、地域産業を支える人材の確保・育成を図ります。(18ページ)

- ⑥ 繁忙期に人手が足りないが、1年を通して足りないわけではない。様々な分野が連携して、1年を通じて仕事を提供できるような仕組みができれば働き手も増えるのではないか。(大竹野委員)

第4章 2 未来を拓く人づくり

(2) 多彩なキャリアをデザインできる働き方の創出

- ・ 特定地域づくり事業協同組合の設立等を支援し、事業者側にとっては繁忙期の人手不足の解消を図り、働く側にとっては季節ごとに仕事を変えられる働き方を提供します。(18ページ)

- ⑦ 農林水産業に従事することが「カッコイイ」ということを、若者にアピールしてはどうか。(有馬委員)

農福連携については、農業だけでなく、水産業など他の分野も活用できれば。(坂下委員)

第4章 2 未来を拓く人づくり

(3) 地域の産業を担う人材の育成・確保

- ・ 地域の農林水産業を支える人材を確保するため、農業労働力支援センターによる相談活動や、農業、林業、水産業と福祉との連携の推進、異業種との連携、外国人材の円滑な受入に向けた環境整備、体験ツアー等による魅力発信など、多様な人材の確保に向けた取組を推進します。(18ページ)

併せて、「農業ファッションショー（曾於市）」の写真を挿入

- ⑧ 志布志港の整備が進み、木材輸出だけの港ではなく、どのように活用し、産業振興に繋げていくのか。輸入も考える必要があるのではないか。(県庁)

第4章 3 暮らしやすい社会づくり

(5) 快適な生活環境の向上と世界につながる県土の創造

- ・ 志布志港については、国内外との物流拠点として、機能向上を図るとともに、飼料穀物の安定的かつ安価な輸入を実現し、畜産業の競争力強化に資する国際バルク戦略港湾の整備を推進します。(23ページ)

第4章 4 活力ある産業づくり

(1) 農林水産業の「稼ぐ力」の向上

- ・ 志布志港からの、県産農林水産物等の更なる輸出拡大に向け、小口混載物流などの取組を推進します。(24ページ)

- ⑨ 空き家対策について、持ち主や権利関係が分からないなどの課題があり、活用したくてもできないという現状がある。思い切った取組が必要ではないか。(丸野委員)

第4章 3 暮らしやすい社会づくり

(6) 個性を生かした地域づくりと移住・交流の促進

- ・ 地域に増えつつある空き家については、利活用できるものは移住定住や地域の交流施設等への活用を促し、危険なものについては除去を促進します。(23ページ)

- ⑩ 農家民泊に取り組んでおり、利用者の一番の関心は「食」である。観光の「稼ぐ力」について、「大隅の食」を提供する取組も必要である。(堀之内委員)

スポーツ合宿等が多いが宿泊が少ない。いかに泊まってもらってお金を落としてもらうか、地域全体で考える必要がある。盛んな畜産を観光に活かす取組も必要ではないか。(県庁)

第4章 4 活力ある産業づくり

(1) 農林水産業の「稼ぐ力」の向上

- ・ 食と農林水産業に関する体験機会の提供や農林水産業者と消費者の交流等による県産農林水産物への理解促進等の食育の推進を図るとともに、地域固有の食の魅力の掘り起こしを行い、稼ぐ力の向上を図ります。(25ページ)

第4章 4 活力ある産業づくり

(2) 観光の「稼ぐ力」の向上

- ・ 和牛日本一に輝いた牛肉などの大隅の豊かな食材について、観光客が堪能できるような取組を推進します。(26ページ)

- ⑪ 宿泊インフラや二次交通に乏しいという課題に対する取組が必要ではないか。キャンプ場や農家民泊等で宿泊施設の整備を進め、長期滞在や体験型観光に繋げる。都城志布志道路も出来たので、県を跨いだ交流という視点もあってもよいのでは。(県庁)

第4章 4 活力ある産業づくり

(2) 観光の「稼ぐ力」の向上

- ・ 霧島錦江湾国立公園等の豊かな自然や良好な景観を生かし、地域の観光資源の魅力をつなぐ周遊型観光ルートの形成など、観光客の大隅地域内各地への周遊を促進するとともに、県内各地や隣県との周遊を促進するため、他地域との連携を図ります。(25ページ)
- ・ 地域の観光資源の発掘や磨き上げに努め、自然や環境、自転車・バイク、健康・癒やしなどをテーマとする各種ツーリズムや、農家民泊など農山漁村の地域資源を生かした体験活動を提供するグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズム、デジタル技術と観光資源の融合等による新たな観光コンテンツやサービスの創出などのスマートツーリズムなどの取組を促進します。(25～26ページ)
- ・ 多様化する観光の形態を踏まえ、マイクロツーリズムや「旅育」等、新しい旅を提案します。(26ページ)
- ・ 大隅の豊かな自然環境を体験できるキャンプ場等の整備を促進します。(26ページ)

第5章 取組方針実現のために

4 県域を越えた広域連携

観光や大規模災害など県域を越える広域的な課題に適切に対応するため、生活圏や河川流域を共有する都城圏域など県際間の連携を更に推進します。(32ページ)

- ⑫ ライダー向けのアンケートを実施しているが、大隅半島の道路は走りやすい一方、草木が繁茂する箇所があるなど安全性の問題もあり、維持管理が重要である。(原添委員)

第4章 4 活力ある産業づくり

(2) 観光の「稼ぐ力」の向上

- ・ サイクルツーリズムのモデルルートや景勝地に続く道路については、道路景観の保全を図ります。(26ページ)

- ⑬ 大隅地域は農林水産業が盛んであるが、高付加価値化するための農林水産物の加工をどのようにしていくのか。大隅加工技術研究センターも活用し、食品加工製造業をどのようにしていくか大事な視点である。(県庁)

第4章 4 活力ある産業づくり

(3) 企業の「稼ぐ力」の向上

- ・ 大隅地域が有数の生産額を誇る農産物等について、大隅加工技術研究センターの機能を生かしつつ食品加工業者等と連携し、付加価値の向上を図り、6次産業化を支援します。(27ページ)

- ⑭ 地域特性や企業の独自技術などを生かし、企業の「稼ぐ力」を向上させ、県民所得の向上を図ることが必要である。(市町)

第4章 4 活力ある産業づくり

(3) 企業の「稼ぐ力」の向上

- ・ ロケット打上げ射場を有する強みを生かした宇宙産業など、地域特性や企業の独自技術などを生かした新産業への支援を図ります。(27ページ)